

事業名

花いっぱい通学路クリーンアップ作戦

目標

子ども達をとりまく物的、人材的、精神的、教育環境の整備・向上・充実を地域と学校が協力して取り組む。

1. 取組の視点

昨年に続いて、通学路を花いっぱいにし、子どもたちの環境を整備する活動に取り組みました。今年度は10月、12月にクリーンアップウィークを設定し、各幼稚園、小学校、中学校がウィーク中に子どもと保護者と地域ボランティアと協働しながら、花壇の整備や清掃活動などを行いました。子どもを中心に地域と学校が一体となるこの取組は保護者以外の地域の人が学校に足を運び、現在の学校や子ども



達の様子を見るよい機会となります。子どもたちは自分も地域の一員であり、地域の役に立っているという自己肯定感が芽生えます。

2. 取組の概要

10月・12月に設定した、富雄中学校区クリーンアップウィークは、ウィーク中に各校園で環境整備活動をすることにより富雄中学校区全体の取組としました。富雄中学校では、10月は生徒会主催のクリーンキャンペーンに生徒約100名と教職員・ボランティアが共に生徒の出身小学校へ出向き、各小学校から富雄中学校までの道のごみを拾いながら歩く活動をしました。また、6月と12月には正門前『花咲きロード』の植替えを行い、地域の方々にも喜ばれています。夏期の水やりが課題でしたが、近隣の協議会のボランティアに、

朝・夕欠かさずご協力をいただきました。



鳥見小学校区でも10月は、第2回『鳥見パチりんこDay』を開催、地域ボランティアと共に活動し、ごみ拾いに加え防犯と挨拶にも重点をおきました。活動後は豚汁もふるまわれ、地域と学校が一体となりコミュニケーションをはかりました。同時に、夏に引き続き『富雄トイレ掃除に学ぶ会』の協力により体育館のトイレ掃除も行いました。12月は『鳥見ふれあいDay』として通学路に花を植え、ボランティアのお宅の玄関先にも花を置き、育ててもらおうようにしました。

富雄北小学校区でも、幼稚園内や小学校正門前に児童・保護者・教職員・ボランティアが花を植えました。コミュニティ・スクールとしてのさまざまな活動と協働し、地域住民が自主的に通学路の環境整備も行っています。

3. 成果と課題

児童・生徒と地域ボランティアと一緒に活動することにより、学校を中心としたコミュニティーの場ができ、地域の活性化、子どもたちの心の安定へとつながりました。活動時に地域の方から褒めていただき、子ども達は地域から必要とされている、地域に愛されていることを実感できました。

ボランティア募集の方法や活動案内の方法については今後も検討していきたいと思えます。

事業名

生徒・職員・地域が伴々・ススク伸びる環境づくり

目標

- ①学校及び地域教育協議会(学習支援・環境整備)の活動の継続。
- ②広報活動を展開し、より多くの協力体制が得られるようにする。
- ③生徒が地域住民として地域貢献できる取り組みを検討する。
- ④職員研修を充実させる。

1. 取組の視点

地域教育協議会の活動(学習支援・部活動支援・環境整備等)が活発に展開され、生徒・保護者・地域住民・教職員の理解と協力によって素晴らしい成果を挙げてきました。今年度はより地域と深く繋がり、協働の精神で取り組める活動へと発展させることと、生徒が将来の地域を支える住民の一員として、地域に貢献できるような具体的な取組を考えることによって、より学校力・地域力を高めることが出来ればと考えました。

2. 取組の概要

・学習支援活動(SAS)：一斉授業の中では十分に理解することができず、基礎学力が不十分な生徒を支援する放課後学習 SAS が学習支援ボランティアによって充実した取組になってきました。保護者・教職員の理解と協力もあり、基礎学力が向上し、レベルアップもみられ、年間63回実施でき、参加生徒数のべ1,000人、学習支援ボランティアさんのべ300人を超えるなど、素晴らしい成果と実績を挙げることができました。



・富雄中クリーンキャンペーン：毎年生徒会が主催で実施していた活動を今年は地域教育協議会と生徒会との共催で行いました。10月27



日(クリーンアップウィーク中)に生徒約100人、地域ボラン

ティア・教職員合わせて約30人が、それぞれの生徒の出身小学校から中学校までの通学路を小グ



ループに分かれゴミ拾いをしました。各小学校ではボランティアや先生方が生徒を出迎えていただき、楽しく有意義な活動となり、一生懸命にゴミを拾う中学生の姿を見て、ともに参加したボランティアさんが感心していました。

・清掃ボランティア：本校では清掃活動を熱心でできないことが課題です。特に教師一人の清掃監督場所が多く、目が行き届かないという問題がありました。そこで、1・2学期の大掃除に学校中のトイレ全てに掃除ボランティアさん(のべ50人)が入り、生徒と一緒にトイレ掃除をしていただきました。熱心に掃除指導をしてくださるボランティアさんとコミュニケーションを取りながら楽しく頑張ることができました。

3. 成果と課題

地域教育協議会による学校支援活動が生徒・保護者・地域・教職員の理解と協力により、一体となつての取り組みが進み、学校内外の環境も整備され、学習支援による基礎学力の向上も見られるようになってきました。また、校区の清掃美化活動や吹奏楽部の出前演奏会、夏祭りへの参加協力など地域に貢献する取組も充実してきました。

事業名

富雄大好きプロジェクト 2

目標

富雄を誇りに思い、富雄で学んでよかったと思える人づくり

1. 取組の視点

本校は、昨年3月に学校運営協議会の設置が認可されコミュニティ・スクールに指定されました。これを機に、学校と地域住民、保護者が互いに信頼を深め、連携を強化し、目標を共有し子どもたちの健全育成を図っています。

本校では地域各団体の皆様方の様々な取組をはじめ、集団登下校のお陰もあり、子ども達の中に自然な形で近隣の縦割り集団が形成されています。この中で上級生は下級生を気にかけて、下級生は上級生を慕い、モデルにするなどの関係ができてきています。また、地域の方々、保護者間にも顔の見える関係づくりが広がりつつあります。今後はさらに地域・保護者の方々と学校が連携強化のための協働事業を展開することにより、学校教育活動を充実させるとともに学校を核とした地域コミュニティを活性化し、富雄を大切に思うとともに富雄で学んでよかったと思える人づくりを目指します。

2. 取組の概要

- ・ 5月18日～24日 家庭科運針サポート
- ・ 6月25日 梅ジュースづくりと花植え
- ・ 8月21日～27日 午前7時30分より
ラジオ体操（小学校にて）
- ・ 8月28日 子どもふれあい夏祭り

（コミュニティ・スクール「ふるさと委員会」共催）
アゴラ太鼓、金魚すくい、シャボン玉、笹舟づくり、ブーメラン 防災競技「水消火器」



- ・ 10月2日 富雄ふれあい秋祭り
- ・ 10月22日 地域安全マップづくり

（コミュニティ・スクール「楓の風」委員会主催）
通学路を中心に、災害（主に地震）が起きた時の危険箇所を把握・点検し、地域の地図を作成すると共に、災害時の行動（身を守る方法、心づもり、避難場所など）について親子で話し合う機会となりました。

- ・ 11月25日 福祉体験（車いす体験等）
- ・ 12月14日 コミスク・フェスティバル



- ・ 12月20日 収穫祭
 - ・ 2月1日 昔遊び
- （コミュニティ・スクール「共育・食育委員会」共催）

3. 成果と課題

学校と家庭と地域が連携して事業を運営することで、参加した児童・保護者と地域の方々とのふれあいの機会を増やすことができました。さらに、コミスク・フェスティバルをとおして富雄北小校区の安心・安全への理解を深め、次の3点で地域連携の意識を高めることができました。

- ① 児童の通学時の安心・安全への取組
- ② 命の大切さと食育
- ③ 地域行事への参加を通して、地域に根ざす児童の育成

事業名

人とのふれあい

—地域を愛するとりみっ子—

—レッツイングリッシュとりみっ子—

目標

- ・鳥見の地域の良さを地元の方から学び、地域に対する誇りと自信を育む
- ・外国の文化や言語に親しみ世界に目を向ける国際人を育成する

1. 取組の視点

「奈良に住んでよかった」とふるさとを誇れる子どもを育成するには、まず、自分の住んでいる鳥見の地域を愛せる子どもを、地域全体で育てていかなければならないと考えて本事業に取り組みました。一方、本年度から新指導要領の実施に伴い英語活動が5・6年で週1時間行なわれますが、本校は、県教育委員会の「早期英語教育」の研究モデル校の指定や、文科省の「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」を受けて、英語活動に取り組んできました。そこで引き続き、世界に目を向ける国際人の育成を目標に、小学校6年間を通し英語を使ってコミュニケーションを図ることができる児童の育成をめざしました。

2. 取組の概要



1年生は、社会福祉協議会の皆さんの呼びかけで、地域の高齢者のみなさんからコマ回しや羽子板、花いちもんめやけん

玉・お手玉、折り紙などの昔遊びを教えていただきました。その後、給食を一緒に食べながら、和やかに交流できました。2年生と6年生には、地元の獣医師の方々、犬やウサギの飼育と生命について教えていただきました。聴診器を使って自分と動物の心臓の鼓動の違いを聞き比べました。生命を慈しむことの大切さから、友達や動物に優しく接することを学びました。



2年生は、お隣の国である韓国・朝鮮の衣装や楽器・ことばについて講師の先生から詳しく教えてもらいました。実際にチマチョゴリを着たり、じゃんけんをやったり、楽器を鳴らしたりして、



文化の違いや文化を守ることの大切さについて学びました。

5年生は、体育館で、講師の方から説明を受け

て、実際に車椅子を操作しました。体験することで車椅子を身近に感じ、車椅子を使われている方との生活について考えました。



一方、英語活動を楽しめるようにと、低学年は基礎となる言葉をゲームや歌・ジェスチャー等の身体表現を伴う活動を通して、オーラルを中心に学習しました。高学年に対しては、外国の文化や風習・生活に関する知識を、講師の先生の故郷で



あるアメリカでの具体的な生活の写真やエピソードを通して子どもたちに伝えることができました。

3. 成果と課題

地域の中には、素晴らしい技術を持った方や専門家がたくさん住んでおられることが分かり、子どもたちは鳥見地域に住んでいることに愛着と誇りを持ったようです。今後は、協力いただいた方を起点にして人材バンク的な組織を構築していくことが、本事業を継続していくポイントとなると考えます。

児童が、小学校6年間を通してスムーズに外国語を学習できる体制が組めたことは良かったです。

本年度から新指導要領の完全実施に伴い英語活動が5・6年で週1時間行なわれているが、低学年の英語活動の位置づけと、6年間を通した体系的なカリキュラムの作成が今後の課題です。

事業名

世界を身近に ユネスコスクールとして

目標

- ・身近な「ひと・もの・こと・ばしょ（行事・文化）」との触れ合いの中で、生き生きと活動する心豊かな幼児を育てる。
- ・ESD（持続発展教育）を進め、食育・環境教育・世界遺産・国際理解等に関心を持ち、地球、地域のくらしや学びを継承する幼児を育てる。

1. 取組の視点

子どもたちは、食育・環境教育・地域教育・国際理解等を通して、いろいろな人・もの・ことに出会っています。その中で、ものごとに主体的に関わることができる子どもの育成が、必要であると考えます。そのためには、それぞれの分野で活躍されている地域の方々に、園児や保護者、未就園児も共に教えていただき、保護者も共に歩めるよい機会となっています。地域の教育力を踏まえこのつながりを大切にしながら、生き生きと活動し、心豊かな幼児を育てていきたいと考え取り組みました。

2. 取組の概要

・地域の方のご協力を得て、「菜の花プロジェクト」の事業に取り組みました。子どもたちは、地域の方に、菜の花の刈り取り・乾燥の仕方や脱穀



を、教えていただき、初めて経験することも多く、意欲的に取り組むことが出来ました。

菜の花から油を収穫したことは、子どもたちにとって感動体験になりました。その油を使い、畑で栽培した小麦でホットケーキやドーナツを作り、誕生会でいただきました。また、油を絞った時にできた油粕は、花壇や畑の肥料に活用しました。廃油は、石鹼作りをしたいと考えています。栽培・収穫・脱穀を経験したことで、食べるだけでなく、様々なところで活用出来ることを知り、環境について興味・関心がさらに高まりました。

・埼玉県平和資料館から、「テレジンの小さな画家たち」の写真パネルをお借りし、ゲストティー



チャーにテレジンの子どもたちの絵についてお話をさせていただきました。子どもたちは、感じたこと

や思った事を話し合う中で、平和について考える機会になりました。

・茶道教室・剣道教室も子どもたちは、毎回とても楽しみに参加しています。1月の茶道教室では、子どもたちが、保護者の方に、「お菓子を先に取りるんだよ」「お点前頂戴しますと言って」等と、堂々と話す姿が見られました。また、地域の方から、「正倉院展」「お水取り」の話を聞かせていただいたり、大仏殿の瓦粘土を使って表現遊びをする等、世界遺産や伝統文化に触れ、感動したり不思議に思ったり、心に残る経験となりました。

・地球温暖化防止の話を聞いたことも、親子共に日常のくらしについて見直す機会になり、節電・節水等、もったいない運動推進になりました。



3. 成果と課題

子どもたちは、様々なことに興味・関心をもって取り組み、いきいきと生活する姿が見られ成長を感じています。これからも、地域の方の様々な教育力をいただき、感動体験を積み重ねられるように、地域の方々の協力体制をお願いしたいと思います。

事業名

小学校教育への滑らかな接続

目標

- ・ 小学校での生活や学習を見通した保育内容の創造に努める。
- ・ コミュニケーション力を高めるような環境構成や援助を行う。
- ・ 地域の方々と触れ合いながら、夢がふくらむ環境づくりをする。

1. 取組の視点

本園は今年度から鳥見小学校内併設となりました。子どもたちの小学校以降の生活や学習を見据えて、①年少・年長を連続したスパンで捉える教育②総合的かつ多様な体験活動の創造③小学校や地域の方との交流の3点が大事であると考えました。そのことから、子どもたちに多様な体験活動ができる取り組みを通して、コミュニケーション力や集中力・思考力・規範意識を育みます。また、地域の方や保護者とふれ合いながら、魅力ある環境づくりや栽培活動をすることにより、健康で活力のある幼児の育成に努めます。

2. 取組の概要

コミュニケーション力・集中力・想像力の育成として、外国人講師による英語活動、ボランティアによる読み聞かせ活動を年間3回ずつ実施しました。英語活動は英語での挨拶、歌やゲームを通して講師先生とのふれ合いを楽しみながら外国の文化や英語に親しみました。絵本読み聞かせは、絵本だけでなく手遊び・パネルシアター・ペープサート・人形劇などもあり、子ども達は毎回とても楽しくお話に親しみました。



ボランティアによる読み聞かせ活動を年間3回ずつ実施しました。英語活動は英語での挨拶、歌やゲームを通して講師先生とのふれ合いを楽しみながら外国の文化や英語に親しみました。絵本読み聞かせは、絵本だけでなく手遊び・パネルシアター・ペープサート・人形劇などもあり、子ども達は毎回とても楽しくお話に親しみました。



また、地域の栽培指導員の方の協力により、園内に畑をつくり、栽培活動を行い、保護者の協力を得て、栽培物を食する経験をしたり、地域の栄養士さんによる食育講座・紙面講座を実施したりしました。



地域の方や保護者に協力を求め、花壇づくりをしました。基礎づくりをし、レンガをひとつひとつ

つ丁寧に積み重ねる様子に、子どもたちは花壇ができていく様子を興味深く見ていました。地域の方が花壇に土を入れ始めると、「僕たちも土を運びたい」と、年長児が手伝いました。地域の方や保護者とコミュニケーションを図りながら進め、立派な花壇が完成しました。テーブルづくりでは、地域の方や保護者が電動ドライバーで板に足を取り付けるのを「すごいなあ」「あつという間についたなあ」と、興味津々で見せていました。天板を紙やすりで磨くの



を教えてもらい、年少児も手伝いました。「やった！できた！」地域の方々が、「お友達と一緒に使ってください」と、言われると、「ありがとう」と、みんなとても喜んでいました。



教えてもらい、年少児も手伝いました。「やった！できた！」地域の方々が、「お友達と一緒に使ってください」と、言われると、「ありがとう」と、みんなとても喜んでいました。

3. 成果と課題

幼児たちは、楽しみながら異文化に接したり、お話の世界に引き込まれていき、想像力や集中力を養うことができました。栽培、食育活動では、作物を育て、みんなで楽しく食べることができ、栽培指導員の方や食べ物への感謝の気持ちや大切にしている気持ちが養われました。また、地域の方々や保護者とコミュニケーションを図りながら、花壇・テーブルづくりにかかわることができました。地域の方々や保護者に対して感謝の気持ちや、ものを大切にする気持ちが育ちました。新しい環境のもと、子どもたちが伸び伸びと遊びを創造していくことにつながると思われます。今後も引き続き環境整備に努め、子どもたちが笑顔あふれ、生き生きと活動できるようにしていきたいです。

